

## リスク管理の利下げを継続した10月FOMC

### ～量的引き締めは12月1日に終了へ～

リサーチ & ソリューション 第1部 佐古 佳史

#### 要旨

10月FOMCは政策金利の誘導目標を25bp引き下げ、3.75～4.00%とすることを決定した。また、12月1日で量的引き締めを停止することも、あわせて示された。

FOMC後の記者会見においてパウエル議長は12月利下げが既定路線ではないことを示唆し、ややサプライズとなった。

#### 25bpの利下げを決定し、政策金利は3.75～4.00%となった

10月28、29日にかけて開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)は、政策金利の誘導目標を25bp引き下げ、3.75～4.00%とすることを、賛成10、反対2で決定した。今回のリスク管理としての利下げは、事前予想通りとなった。反対票を投じたマイラン理事は0.5ポイント利下げを主張し、シュミッド・カンザスシティ連銀総裁は金利据え置きを主張した。こうした反対票も想定内といえる。また、金融政策は依然として引き締め方向ではあるものの、その程度は小幅なものと評価できる。

声明文では「入手可能な指標」によると、雇用増加ペースが減速したこと、失業率は上昇したが低水準であること、インフレ率はやや高止まりしていることなどが記され、経済情勢の評価は、9月FOMC時点から大きな変更はなかった。

図表1 政策金利(上限)の推移



(資料)FRB、LSEG

## 既定路線ではない 12 月利下げ

FOMC 後の記者会見にてパウエル FRB 議長は、①米国経済は堅調に推移している可能性が考えられること、②労働需要が弱まっていること、③関税によるインフレ率の加速は短期的なものであると想定していること、④12 月の政策決定（利下げ）については意見が分かれており、既定路線ではないこと、⑤銀行と金融システムに過剰なレバレッジはみられないことなどについて言及した。市場は 12 月利下げをほぼ織り込んでいたため、④はややサプライズとなった。

また、最新のデータが入手できないことに鑑みて、「霧の中を運転しているときはスピードを落とすものだ」と述べ、政府機関閉鎖が 12 月 FOMC での判断に影響を与える可能性を示唆した。

筆者としては、足元の米国経済が想定以上に堅調なことやインフレ率が高止まりしていることなどから、12 月 FOMC での一時的な利下げ見送りは、現在のところ妥当だと考えている。

## 量的引き締めを終了を発表

10 月 FOMC の声明文では、12 月 1 日をもって、量的引き締めを終了することが示された。FRB は量的引き締め（バランスシート縮小）を 22 年に開始していた。米国債については現在一月あたり 50 億ドルの再投資停止を 12 月 1 日に終了する。一方で、政府機関債・住宅ローン担保証券（MBS）の保有については、10、11 月分は一月当たり約 350 億ドルのペースで圧縮を続ける。その後、12 月 1 日からは、MBS の償還金を米短期債にすべて再投資する。最終的には、FRB のバランスシートのほとんどを米国債で構成することを目指す動きとなっている。

名目 GDP 比でみれば、FRB のバランスシート規模はコロナ禍前とほぼ同じといえる。

(兆ドル)

図表2 FRBのバランスシート規模の推移

(%)

